

●インドネシア LOMBOK 島 SERIWE の水・衛生環境改善インタビュー (2016-12-02)

この漁村はやっと電気が敷かれた程度で、生活用水、ガス燃料は遠い町から購入しなければなりません。雨季は雨水を飲み、乾季は飲料水を購入しています。

今回(2016年11月24日)村の衛生士、助産婦に話を伺う機会を得ました。村民は約350人程度ですが、年に10人に5人の割合で下痢をし、薬をもらっており、5人のうち2人程度が重傷で離れた病院に行き、症状によっては2~3日入院しています。これについて特に対策は取られておらず、手洗いの習慣は全くありません。トイレの普及率は10%程度で、あとは屋外で用を済ましています。まずは安心・安全・安定した飲料水を提供し、し尿等はメタン発酵等によりエネルギー回収し、水、エネルギーの自立を図らねばなりません。同時に水・衛生教育も必要です。現在これら情報をもとに、地元で協力出来ればと計画を進めています。



ロンボック島 セリウェ村の位置



セリウェ村の日々の生活



インタビュー: 右から漁業組合長
村の衛生士、助産婦



雨水溜め(生活用水・飲料水)



雨水の集水(雨樋より集水)



購入している飲料水

●再生可能エネルギー学習会（2016-12-8）



12月8日(木)、今回で7回目となる伊達市小国小学校での出前授業を開催しました。今回は東京都市大学工学部エネルギー化学科宗像文男 教授をお招きし小国小学校 5, 6年生 12名に対し「花の色素を使って太陽電池を作ろう!」というテーマで、講義、実験を行いました。ハイビスカスの花から抽出した色素を使い小さな色素増感型太陽電池を数個つくり外の太陽の光に当てると電子オルゴールが鳴り、身近なものでも発電できることを体験学習しました。

●インドネシア LOMBOK 島 SERIWE プロジェクト（2016-12-13）

今回、2016年4月の製造経験を踏まえ、Mataram 大学と共同して味、食味、包装袋等の改善を実施しました。新たな商品もラインアップに加わり、また SERIWE 主婦を中心とした作業員のトレーニング第二次をおこない、現在 20人規模の作業員体制となり、製造体制が確立されました。これにより海藻工場設備、製造・管理を地元協同組合(Cottoni Cooperative)へ移管いたしました。今後製品は、地元 SERIWE、マタラム市などロンボク島での販売、ジャカルタのダルマプルサダ大学生協での販売等拡販活動を進めていきます。今回三井物産ジャカルタ支店の方々も視察に来られました。



海藻工場移管調印式



プロジェクトメンバーの記念撮影

●インドネシア Tangsi Jaya コーヒー農園プロジェクト（2016-12-13）

今回回国西ジャワ州 Tangsi Jaya のコーヒー農園での小水力発電活用による地域創成プロジェクト

活動を進めています。Tangsi Jaya村は西バンドン州(地区)Gunung halu(分区)郡の 13 ある部落の一つで、標高 1150m の山深い山間集落で村民は 322 人、90 世帯程です。山間を流れる Cidadak 川流域を、千枚田のように切り開き、稲作が行われ生計を立てており、またコーヒー豆も栽培しており平均 2 百円程度／日が主な収入となっています。地滑りによる導水管破損で運転不能となっていた小水力発電設備も整備され、またコーヒー貯蔵庫・加工工場建設用地も整備されて順調なスタートを切っています。



Tangsi Jaya村の風景



整備された小水力発電設備



加工工場建設予定地にて

●インドネシア Tangsi Jaya コーヒー農園プロジェクトキックオフミーティング (2016-12-15)

12月15日ダルマプレサダ大学で本プロジェクトのキックオフミーティングが開催されました。学長、三井物産インドネシア関係者、Tangsi Jaya 地元幹部も列席し、プロジェクトリーダー Kamaruddin 教授(大学院長)による、PJ 概要、スケジュール、予算、成功へのキーポイントなどの説明が行われました。PJ メンバーの決意も新たになりました。

(今回日本側のメンバーは参加しておりません)

